

# 令和 5（2023）年度事業報告

公益財団法人阿蘇グリーンストック

## 一、各事業報告

### 1 自然保全事業（公1）

#### 【草原保全活動】

##### （1）野焼き・輪地切り支援活動

地元の高齢化、後継者不足により草原維持が困難となっている牧野への野焼き・輪地切り・輪地焼きの支援活動及び各種研修会に取り組みました。

同時に安全管理について、地元牧野組合にも協力していただき、現場での作業前の注意事項の伝達等、参加者へ周知徹底を行いました。

年間の支援牧野は 65 牧野で、延べ 2,281 名（昨年度 2,351 名）名のボランティアの参加がありました。実参加者の人数は、今年度は天候により 3 月 3 日に 22 牧野に対しボランティアを派遣するなど今年も野焼きの開催時期が一度に重なったため、やや微減となりました。

野焼き再開については、南阿蘇村の 1 ヲ所（中松一区）で行いました。

野焼き支援活動の詳細は下記のとおりです。

##### ① 輪地切り・輪地焼き支援活動

- ・実施時期：2023 年 9 月 1 日～2023 年 12 月 3 日
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 43 牧野、89 ヲ所
- ・派遣人数：延べ 1,113 名

阿蘇市	20 牧野、計 530 名
南小国町	7 牧野、計 129 名
高森町	5 牧野、計 251 名
南阿蘇村	6 牧野、計 120 名
西原村	4 牧野、計 74 名
産山村	1 牧野、計 9 名

##### ② 野焼き支援活動

- ・実施時期：2022 年 5 月 2 日～2024 年 4 月 20 日
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 56 牧野、75 ヲ所
- ・派遣人数：延べ 1,168 名

阿蘇市	26 牧野、計	544 名
南小国町	10 牧野、計	182 名
小国町	2 牧野 計	42 名
産山村	1 牧野 計	9 名
高森町	3 牧野、計	116 名
南阿蘇村	8 牧野、計	184 名
西原村	6 牧野、計	91 名

## (2) 研修会の開催等

野焼き・輪地切り支援活動の安全管理のための講習会、研修会等を開催しました。会員登録者数は2024年5月現在で1,035名です。今年度は初心者講習会の受講者も多かったほか、新規加入のボランティアも200名を超え、例年以上に会員数が増加しました。

### ・野焼き支援ボランティアリーダー全体会

第1回 (2023. 4. 29)	参加者 34 名
第2回 (2023. 8. 27)	参加者 37 名
第3回 (2023. 12. 16)	参加者 29 名
第4回 (2024. 1. 27)	参加者 32 名

### ・刈払機安全講習会

第1回 (2023. 8. 6)	参加者 29 名
第2回 (2023. 8. 20)	参加者 21 名
第3回 (2023. 8. 22)	参加者 12 名
	合計 62 名

### ・野焼き支援ボランティア初心者研修会

夏季 (2023. 7. 30)	参加者 56 名
第1回 (2024. 1. 14)	参加者 58 名
第2回 (2024. 1. 20)	参加者 58 名
第3回 (2024. 1. 21)	参加者 52 名
第4回 (2024. 1. 28)	参加者 68 名
出張研修 (KM バイオロジクス) (2023. 8. 27)	参加者 18 名
出張研修 (JAF) (2023. 11. 20、24、29)	参加者 37 名
出張研修 (南倫理法人会) (2024. 1. 22)	参加者 6 名
出張研修 (シスケン) (2024. 2. 15)	参加者 7 名

合計 360 名

- ・ボランティアリーダー養成研修会  
2023. 7. 20 開催分 参加者 2 名

- ・火引き研修会実施牧野
  - 狩尾二区 (阿蘇市)
  - 上中原牧野 (南小国町)
  - 菰田牧野 (南小国町)
  - 田の原牧野 (南小国町)
  - 下平川牧野 (産山村)
  - 沢津野牧野 (南阿蘇村)

### (3) 活動時のボランティア宿泊支援

活動時のゆたっと村宿泊に関しては低価格（一般ボランティア 1 泊 700 円＋光熱費）にて提供し、遠方より参加の場合や、ボランティア開始時間が早いため、移動中の自動車事故防止のためにも利用していただけるようしています。今年度は延べ 255 人の利用がありました。

### 【森づくり活動】

企業・団体と連携した森づくり活動を下記の通り行いました。

- ・コカ・コーラボトラーズジャパン (2023. 6. 10) 竹伐採
- ・西陵ロータリークラブ (2023. 6. 11) 下草刈り
- ・東京応化工業 (2023. 5. 29、7. 28、11. 22) 下草刈り・枝打ち

### 【普及啓発活動】

野焼き支援活動の情報発信及び草原保全への普及・啓発活動について下記の様に取り組みを行いました。熊本県東京事務所・パレアロビー9F・モンベル南阿蘇店ではそれぞれ約 200 名程度の来場があり、また博多阪急百貨店では具体的な数は測定できていませんが、1 階の人通りの多い場所で展示を実施できたことから、上記の 3 施設を超える方がパネルを見たと考えられ、今年度では 4000 名を超える人に見ていただいたものと考えています。その結果、福岡からの初心者研修会参加者が昨年度比で倍増するなどの成果も出ています。

#### (1) 普及・啓発のための都市部でのパネル展の開催

- ①実施日 2023 年 4 月 13 日～4 月 30 日 (18 日間)  
場 所 熊本県東京事務所
- ②実施日 2023 年 5 月 10 日～5 月 23 日 (14 日間)  
場 所 パレアロビー9F
- ③実施日 2023 年 9 月 30 日～10 月 13 日 (14 日間)  
場 所 モンベル南阿蘇店

④実施日 2023年1月10日～1月16日（9日間）

場 所 博多阪急百貨店

(2) ASO 草原フェスティバル 2023 の開催

日時 2023年11月25日（土）午前10時～午後15時

場所 草原保全活動センター敷地内及び館内

参加者 約1,300名（内ボランティアスタッフ50名）

以下のような熊本県、環境省、世界農業遺産等の関係団体にもブースを出していただき、様々な関係者とともに草原関係の事業等を普及啓発することができました。

- ・阿蘇世界文化遺産登録推進協議会の取り組み紹介
- ・阿蘇地域世界農業遺産推進協会の取り組み紹介
- ・阿蘇ジオパーク推進協議会の取り組み紹介
- ・野焼き支援ボランティア活動の紹介
- ・茅事業の取り組み紹介

また、下記のような各種体験について実施し、多くの参加者に楽しんでいただきました。

- ・クラフト体験
- ・チェーンソー体験
- ・あか牛炭火焼のふるまい
- ・大型機械体験
- ・木工体験（スプーンづくり）
- ・ジェットシューター体験
- ・マルシェ・フリーマーケット・フォトコンテストなど

(3) 自然保全活動に関する講演会とイベントの開催

①ボランティアの会員総会にあわせ、熊本市内で他地域の草原保全事例から阿蘇の取り組みを考えるシンポジウムを開催しました。

- ・名 称：小さな自然再生の事例
- ・開催日：2023年7月15日（土）
- ・会 場：熊本城ホール
- ・参加者：ボランティア、関係者含め80名ほどの参加
- ・内 容：鳥取大学特任教授の日置佳之先生より、ご自身の活動や研究の事例を交えながら地元中国地方の自然再生に関する講演をしていただきました。

②また、博多阪急の店舗にて、SAVE THE ASO というイベントを開催しました。

そのなかで阿蘇の草原保全や阿蘇の登山道整備の取り組みをテーマした、対談形式のトークイベントを行いました。

- ・名 称：SAVE THE ASO
- ・開催日：2024年1月14日（日）
- ・会 場：博多阪急
- ・参加者：福岡市民等50名ほどの参加

・内 容：YAMAP のクラウドファンディングを用いた阿蘇の登山道整備と草原再生の事例紹介

・講演者：阿蘇グリーンストック 専務理事 増井太樹  
株式会社 YAMAP 小島慎太郎 氏

また、上記イベント期間中に、阿蘇のあか牛肉を使ったメニューを食堂で提供し、阿蘇の草原とあか牛について理解を深めていただく試食会を行いました。

・提供数：350 食

#### (4) 草原ボランタリズムの開催

昨年までのボラツアー企画では、日帰りであることや、参加者属性が高齢者に偏っているところもあり、その後継続して草原や阿蘇にかかわりを持つことが難しかった。そこで今年度は企業での希少種保全活動ツアーと、阿蘇の草原を舞台として「環境再生」を学ぶ1泊2日の一般募集型旅行を企画した。参加者は草原保全のための知見を学び、ツアー後も阿蘇の草原保全の「関係人口」になることを目指しました。

①第1回：2023年11月19日（日）

活動内容 阿蘇の希少種保全活動（草の除去作業）

企業名 伊藤園

参加者は、一般募集と企業の社員とご家族 約30名

阿蘇の希少種保全活動について、阿蘇草原保全センターでレクチャーを受けたあと、阿蘇市の井手牧野に移動し、希少種保全のためにあらかじめボランティアが刈っておいた草を、ボランティアリーダーの指導で、寄せて、まとめて、トラックに運び込む作業を行った。子供たちも含めた参加者は予想を超える草の運び出しを行ってくれた。

②第2回：2023年12月9日（土）-12月10日（日） 12人参加

リジェネラティブツーリズム (Regenerative Tourism) in ASO として、東京を拠点とする GREENZ に運営を委託し、協力してツアーを行いました。参加者の多くが20~40代で比較的若い環境意識の高い方が参加し、その後も SNS での発信や現地への来報など交流が続いています。

プログラム内容

- ・牧野見学、草原講座
- ・草原保全活動への参加

③第3回：2024年3月2日（土）-3月3日（日） 13人参加

リジェネラティブツーリズム (Regenerative Tourism) in ASO として、東京を拠点とする GREENZ に運営を委託し、協力してツアーを行った。

プログラム内容

- ・牧野見学、草原講座
- ・牧場での体験、野焼き見学

※ 公1の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位: 円)	備考
活動会員受取会費	1,658,500	野焼き支援ボランティア会費
自然保全事業収益	36,313,482	草原保全システム (2355 万)、 県サポータ認証事業 (426 万)、世界農業遺産推進協会 (40 万)、野焼き専門家集団の育成モデル構築事業 (272 万円)、希少種保全 (65 万)、あか牛基準策定 (101 万)、自然観察会 (43 万円) 研修会参加費 (38 万) 季刊誌購読 (16 万)、協賛事業 (87 万)、等
ゆたつと村利用事業収益	155,600	ボランティア活動時の宿泊費
受取補助金等	86,566,822	熊本県阿蘇草原維持再生人材確保事業補助金 (7492 万)、阿蘇市健康の郷づくり推進事業 (22 万)、阿蘇草原再生募金助成金 (200 万) ヒゴタイ基金 (200 万) 大東建託みらい基金 (100 万)、イオン環境助成 (46 万) 多面的機能支払 (514 万)、YAMAP クラファン (81 万)
受取寄付金	6,306,742	グリーンコープ、熊本トヨタ、松合食品、コカ・コーラいろはすプロジェクト、SYSKEN、G S C、田園空間博物館、村山牧野、杉本建設、熊阿建設、ローカルゲイン、ほか個人より
雑収入	2,542,778	野焼き賠償保険の市町村負担金等
収入合計	133,543,924	

人件費計	19,352,637	
物件費計	86,950,124	
支出合計	106,302,761	

(収入) 133,543,924 円 - (支出) 106,302,761 円 = 27,241,163 円

※公1事業が黒字となっていますが、要因としては、県の補助金で購入し、ボランティアに貸与している難燃性作業服の在庫 (900 組) を貯蔵品として資産に計上しているためであり (26,829,000 円)、それを除くと、27,241,163 円 - 26,829,000 円 = 412,163 円の黒字となります。なお、今年度貸与できなかった難燃性作業服については速やかに支援活動に参加する野焼き支援ボランティアに貸与する予定です。

## 2 自然体験・農業体験学習事業（公2）

### （1）農村体験型修学旅行受入事業（ファームステイ）

農村生活や農業体験などを通して農業・農村について学び、自然や人との触れ合いを大切にすることを育むことで青少年の健全な育成を目指して取り組んでいます。コロナ禍により落ち込んだ受入数も回復を続けており、昨年度を越える受け入れ実績となりました。2023年度の実績は下記の通りです。

- ・倉敷市立連島中学校（2023.5.10） 144名
- ・京都市立双ヶ岡中学校（2023.6.2） 28名
- ・大阪市立港南中学校（2023.6.14） 134名
- ・Japanese Cultural and Community Center of Northern California（2023.8.7）  
6名
- ・跡見学園中学校（2023.9.28） 35名
- ・「JENESYS2023」中国青年公益事業交流団第1陣（2023.10.25） 33名
- ・平安女学院中学校（2023.10.26） 30名
- ・九州動物学院（2023.10.30） 58名
- ・桃園市立大園国際高級中等學校（2023.12.13） 31名
- ・「JENESYS2023」中国青年公益事業交流団第2陣（2024.1.25） 22名

受入数 10団体 521名

### （2）環境教育及び農業体験事業

阿蘇の将来を担う地域の子供たちを対象とした環境教育を下記の通り行いました。阿蘇の草原、火山、地域文化などについて学ぶ機会を提供し、体験活動を交えることで理解を深められるよう取り組んでいます。また、野焼き支援ボランティアの方々や関係団体と連携を図り、学習内容に合わせて適切にコーディネーター業務（連絡・調整・学習の準備など）を行いました。

地元小学生の草原環境・体験学習は以下の通りです。（14校、522名受講）

- ・阿蘇市 阿蘇小学校5・6年生、阿蘇西小学校3・4年生  
一の宮小学校4年生、内牧小学校4年生、波野小学校1～6年生
- ・南小国町 りんどうヶ丘小学校3・4年生
- ・小国町 小国小学校4年生
- ・産山村 産山学園義務教育学校4年生
- ・高森町 高森中央小学校4年生、  
高森東学園義務教育学校4年生
- ・南阿蘇村 白水小学校3年生、南阿蘇西小学校3年生
- ・西原村 山西小学校3年生、河原小学校3年生

### (3) ゆたっと村での体験事業

今年度はゆたっと村の体験交流施設の2階部分及び1階のサッシのリフォーム、土間への薪ストーブの設置、省エネ照明・家電への変更等を実施しました。実施にあたっては熊本県や官公庁の補助金を活用しました。

公2の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
村民受取会費	157,500	村民会費
自然体験・農業体験学習事業収益	2,506,291	民泊・体験受け入れ198万)、ヒゴタイ基金(37万)、阿蘇市公園管理委託費(15万)
ゆたっと村体験事業収益	0	
補助金	2,946,500	観光庁(199万)熊本県(95万)
雑収入	162,665	ゆたっと村土地賃借料(年12万)農機具賃借料(4万)
収入合計	5,772,956	
人件費計	912,068	
物件費計	6,403,213	リフォーム、薪ストーブ設置等
支出合計	7,315,281	

(収入) 5,772,956円 - (支出) 7,315,281円 = △1,542,325円

### 3 調査・研究事業(公3)

阿蘇市、熊本県、環境省から希少な植物が分布する場所の保全調査及び作業を引き受けました。また、各種研究事業を自主的に実施し、それに対して熊本県や草原再生協議会から活動助成をいただきました。

公3の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
事業収入	2,878,668	阿蘇市28.2万、熊本県56.5万、農業遺産45万、環境省97万 若手研究49万、草原再生募金11万
収入合計	2,878,668	
人件費計	1,365,536	
物件費計	1,543,725	
支出合計	2,909,261	

(収入) 2,878,668円 - (支出) 2,909,261円 = △30,593円

#### 4 あか牛オーナーへのあか牛肉販売事業（収1）

阿蘇の草原を守るためには、阿蘇の草原を利用した畜産業の発展が最も有効な手段となります。独自の事業として阿蘇のあか牛の増頭又は維持に向けた畜産農家への支援のために県内外の方へオーナーへの参加を呼び掛けました。新規契約もあり、昨年度とほぼ変わらないオーナー数を確保しています。

##### ① あか牛オーナー制度について

2023年度新規契約オーナー数	7名（あか牛5頭）
2023年度のオーナー数	44名1団体

受入牧野のエリアに関しては、阿蘇市5牧野、南小国町2牧野、南阿蘇村4牧野、高森町5牧野となっています。オーナー代表者会議を年2回開催し、交流会についても年2回開催しました。

##### ② あか牛肉販売について

あか牛オーナー制度（オーナーより1口につき30万円を預り、30万円を畜産農家へ繁殖牛購入資金として無利子で貸し出す）では、年間5万円を目途にオーナーの申込みに応じてあか牛肉を5年に亘ってお届けするものです。こちらは例年とほぼ同様の事業収益がありました。また、あか牛肉を使った肉味噌の販売も実施しました。

収1の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
活動会員受取会費	90,000	オーナー・農家より
事業収益	2,391,640	あか牛肉他の利用
雑収入	364,708	運送費、保冷箱、保冷剤代オーナー負担、あか牛産品
収入合計	2,846,348	

人件費計	191,739	
物件費計	2,603,714	
支出合計	2,795,453	

（収入）2,854,930円 －（支出）2,795,453円 ＝ 50,895円

#### 5 食事提供及び農産物の販売等事業（収2）

一般の団体や個人のゆたっと村の宿泊利用、あか牛肉の利用普及のためのバーベキューの提供、また、農産物の販売などを行いました。前年に引き続きBBQの売り上げが増

えたほか、特定の事業者にも農産物を販売する仕組みもできたことから、農産物の売上も  
 昨年比で10万円ほど増加しました。

① 宿泊での利用は以下の通りです。

・ 宿泊利用 228人

② 農産物の収穫・販売をしました。

・ 椎茸 ・ 落花生 ・ 栗 ・ ブルーベリー ・ 梅 ・ 高菜

収2の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
事業収益	1,153,490	宿泊・体験 (52.5万)、BBQ (56万)、農産品 (49万)
雑収入	82,440	九電賃料、ブルーベリーアイス
収入合計	1,661,988	

人件費計	325,017	
物件費計	1,252,966	
支出合計	1,577,983	

(収入) 1,661,988円 - (支出) 1,577,983円 = 84,005円

## 6 受託調査事業 (収3)

阿蘇草原再生野草地環境保全計画調査事業 (環境省、通称「牧野カルテ」) について  
 阿蘇草原再生協議会会員で国立公園内の牧野組合を対象とした環境省による調査事業  
 で、草原文化 (草原の活用、地名、希少動植物等の調査) 及び草原再生 (野焼き作業軽  
 減の為に防火帯整備等の調査) の調査に取り組みました。

今回の調査対象牧野は、赤水、狩尾南山 (阿蘇市)、田の原、波居原 (南小国町)、  
 上田第一 (小国町)、白川、夜峰山・御竈門山地区 (南阿蘇村) の7牧野で実施しまし  
 た。

収3の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
事業収益	25,212,000	環境省入札
収入合計	25,212,000	

人件費計	7,033,042	
物件費計	16,067,301	委託費 1236万,
支出合計	23,100,343	

(収入) 25,212,000円 - (支出) 23,100,343円 = 2,111,657円

## 7 受託管理事業（収4）

### （1）事業の内容

環境省の「草原学習館」及び阿蘇市の「草原情報館」の2つの施設管理を受託し、それぞれ下記のような施設概要で、連携して管理運営にあたりました。主には財団で施設、警備、清掃、日常管理、総合窓口、来客者対応、案内、展示物管理、情報提供ホームページ管理等を行ってきました。情報館ではワーケーションの場として利用がされています。

- ・ 草原学習館来館者・利用者数 9,800人
- ・ 草原情報館来館者・利用者数 6,918人

### （2）施設の概要

#### ①環境省「草原学習館」

- ・ 規模：建築面積 806.28 m<sup>2</sup>、延床面積：684.37 m<sup>2</sup>
- ・ 構造：木造平屋建て
- ・ 機能：レクチャールーム、展示、屋外作業スペース、事務室、トイレ、倉庫
- ・ 駐車場：普通車 33 台、身障者用 1 台、大型バス 2 台

#### ②阿蘇市「草原情報館」

- ・ 規模：建築面積 729.48 m<sup>2</sup>、延床面積：648.07 m<sup>2</sup>、広場：1,200 m<sup>2</sup>
- ・ 構造：木造一部鉄骨造平屋建て
- ・ 機能：ワークスペース、事務室、オフィス、トイレ、倉庫、駐輪場
- ・ 駐車場：普通車 71 台、身障者用 2 台、大型バス 2 台

収4の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
受託管理事業収入	9,303,580	草原学習館（796万）、草原情報館（134万）
収入合計	9,303,580	

人件費計	5,547,731	
物件費計	3,234,706	
支出合計	8,782,437	

（収入）9,303,580円 －（支出）8,782,437円 ＝ 521,143円

## 7 法人会計

月次決算等、会計処理については公認会計士に委託して運営しました。今年度からパート職員2名を正社員にしたため、キャリアアップ補助金をいただいたほか、前専務の退職に伴い、退職金の積立金の返還がありました。また各種講演を行ったことから雑収入が増加しました。

法人会計の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
基本財産運用益	400,000	20年国債(金利1.6%)
維持賛助会費	2,927,000	個人会員67名(20万円) 団体会員50企業団体(258万円)
受取補助金	617,000	キャリアアップ補助金
雑収入	1,700,328	退職積立金返還(桐原)132万、講師報酬、費用弁償他
収入合計	5,644,328	

人件費計	1,914,071	
物件費計	2,919,787	
支出合計	4,833,858	

(収入) 5,644,328円 - (支出) 4,833,858円 = 810,470円

## 二. 2023年度収支決算について

(1) 上記のとおり事業全体としての経常利益は下記の通りです。

(収入) 186,863,792円 - (支出) 157,617,377円 = 29,246,415円※

(2) 公益事業比率は、116,527,303円 ÷ 157,617,377円 = 73.93%

となります。

※経常利益が大幅な黒字となっていますが、要因としては、熊本県の補助金で購入し、ボランティアに貸与している難燃性作業服の在庫(900組)を貯蔵品として資産に計上しているためであり(26,829,000円)、収入から貯蔵品の資産計上したものを除くと、1,854,615円の黒字となりました。黒字分については2024年が野焼き支援ボランティア25周年であることから、ボランティア活性化に使用するほか、従業員の待遇改善に努める予定です。なお、貸与できなかった難燃性作業服については速やかに支援活動に参加する野焼き支援ボランティアに貸与する予定です。

<別紙決算報告書参照>